

第2回 みどり市立学校適正規模・適正配置検討委員会 議事録

○日 時 令和5年10月5日(木) 午後7時00分～午後8時50分

○場 所 みどり市役所 教育庁舎 3階 第1会議室

○出席者

【みどり市立学校適正規模・適正配置検討委員会委員】13名

委員長	田口 和人
副委員長	清田 敏治
委員	鈴木 孝明
委員	新井 博介
委員	備海 忍
委員	春山 寛之
委員	富所 哲平
委員	村田 紀子
委員	須田 敏之
委員	黒澤 寿一
委員	大澤 智
委員	高草木 良江
委員	穴倉 淳一

【みどり市教育委員会】 7名

みどり市教育委員会	教育長	保志 守
教育総務課	課長	正田 一仁
学校教育課	課長	神山 亮一
教育総務課	課長補佐	長澤 伊知郎
学校教育課	課長補佐兼指導係長	小暮 真美
教育総務課施設係	係長	井本 一弘
学校教育課教職員係	管理主事	日置 潤

【報道機関】 なし

【傍聴者】 なし

○議事の概要

1 開 会 [開始：午後7時00分]

2 委員長あいさつ

・委員長 田口 和人

皆様、こんばんは。前回の第1回会議では大変お世話になりました。

協議の前に、本委員会の位置付けについて、もう一度確認させていただきます。

みどり市立学校適正規模・適正配置検討委員会規則第2条にあるとおり、本委員会は、「みどり市教育委員会の諮問に応じて、調査審議し、意見の答申を行う」ものであります。

また、委員会の会議は委員長が招集するものとしています。つまり、事務局から説明等はしていただきますが、調査や審議の主体は、委員会にあるということです。必要な部分については、事務局に質問等をしていただいても構いませんが、議論は委員の中で行うということが中心となりますので、ご了解をいただきたいと思います。調査・審議を行うということですが、協議していく中で調査が必要になった場合、事務局へ調査要望を出していきたいと思えます。

次に、今後のスケジュール【資料5】によって、本日の会議の位置付けについて確認したいと思います。第6回の委員会において最終答申を提出することになりますが、本日の第2回と第3回の委員会の中で、学校適正規模・適正配置の基本的な考え方の検討を行い、第4回委員会で考え方の決定を行います。そのようなスケジュールのイメージをお持ちいただきながら、本日の会議の位置付けについてご理解をいただきたいと思えます。

本日の協議事項としては、大きく2つあります。1つ目は、「学校適正規模・適正配置についての基本的な考え方」について、2つ目は、前回の会議でも示されておりましたが「アンケート調査」についてです。

それでは、皆様よろしくお願いいたします。

4 協議事項

(1) 学校適正規模・適正配置について

① 事務局からの説明

・教育委員会としての基本的な考え方 … 【資料1】

・今後の見通し 学校施設の計画から … 【資料2】

児童生徒数面から … 【資料3】

※資料1～資料3、資料6に基づき、事務局から説明。

② 委員意見交換

(2) アンケート調査について 【資料4】

① 事務局からの説明（児童生徒保護者対象、教職員対象）

※資料4に基づき、事務局から説明。

② 委員意見交換

・意見や質疑応答は、以下のとおり。

(1) 学校適正規模・適正配置について【資料1～3、6】	
発言者	発言内容
議長（委員長）	ただ今、事務局から説明がありましたが、内容が多岐に渡るため、順を追って進めていきたいと思えます。まず、資料1のみどり市教育委員会としての考え方についてですが、第1回委員会において、学校適正規模・適正配置について検討していく上で、まずは教育委員会としてどのように考えているかということが分からなければ進められないというご意見があり、今回教育委員会としての考え方などを示していただいたわけですが、まず、このことについて、ご質問がありましたら挙手をお願いいたします。
委員1	適正配置の考え方の中で、「学校区を見直す」ということがありますが、例えば、市を越えた学校区というのは可能なのかお聞きしたい。
事務局	市町村立学校において、市を越えた学校区を設定するということはありません。
議長（委員長）	これは、もっと上の法律が変わらない限り難しいということでしょう。これまでそのような事例はあったのでしょうか。
事務局	市町村の中で学校区を無くす等の事例はありますが、市を越えた学校区というのは無いと思えます。
委員1	特認校となっているあずま小中学校は、「市内では（市内に限り）」どこからでも通えるということでしょうか。
事務局	その通りです。
委員2	みどり市の重点施策として、少子化対策を謳っていますが、基本的な考え方の中にある「小規模校を維持していく」とことと「少子化対策を行う」ということは相反するよう感じますが、教育委員会ではどのように考えていますか。
教育長	小規模校を維持していくことと少子化対策は相反するというご意見をいただきましたが、見方によると同じだと言えるのではないかと思います。 まず、教育環境等の充実などの少子化対策により、児童生徒数を増やすことをみどり市としては目指しているところですが、児童生徒数の推計を見ると、みどり市の児童生徒数は今後も減少傾向にあります。また、予想以上に少子化が進んでいるという状況が全国的にあり、そこに歯止めをかけたいということいろいろな施策を行っているところであります。 少子化の特徴を生かすということも大事な視点であるため、みどり市ではメリットを生かし、デメリットを補強していくという考え方で今回の基本的な考え方を示したところです。
委員2	つまり、今後、小規模校が大規模校に変化した場合は、みどり市のアピールポイントも変化していくという認識でよろしいでしょうか。

教育長	はい。桐生市でも学校規模適正化に取り組んでいますが、市の状況がみどり市とは異なるというところもご理解いただきたいと思います。
議長（委員長）	これは重要なポイントであると思います。委員会として議論を進めていく上では、議論のイメージを共有しなくてははいけない。基本的な考え方のベースとして、今後の推計にあるように児童生徒数が減っていくということを前提に議論をしていくのか、市として人口増加を目指しているのだから、児童生徒数も増加する場合を想定して議論していくのかを明確にしておかなければいけないと感じました。
委員	説明の中にあつた図工や技術科、家庭科などの教科において、一人の先生がいろいろな学校に行つて教えるというのは「町の先生」というようなイメージかと思いますが、これまでに成功事例などはあるのでしょうか。
教育長	みどり市の教育としては、県内で一番早く教科担任性を導入しております。そのために、県から特配という定数にプラスアルファの人員をいただいて中学校の先生が小学校へ教えに行くというようなことを行つており、成果が上がつています。群馬県全体でも教科担任制を進めているところです。 小学校で教科担任制を行うことで、教師にもメリットがあり、また、児童生徒にとつても、いろいろな先生が教えることによる教育的効果が高いと考えています。みどり市では、例えば中学校の英語の先生が専門性を生かし、小学校の英語を兼務するというようなことを行つています。 このような取組を効果があるという実証の裏付けのもとに実施しているというのが現状です。ただ、教員の定数配置の中で行うことは難しいため、県費の特配や市費による教員を充てるなどが必要となります。
委員	適正配置の考え方の中で、学校区を見直すことで不登校対策に効果が期待されるとあるが、どういったことで効果があると考えているのかお聞かせ願いたい。逆に、小学校で不登校だった児童が中学校で別れることによって学校へ行けるというようなことがあるのではないかと思います。いかがでしょうか。
学校教育課長	いろいろなケースが考えられますが、一般的には同じ集団が同じ中学校へ進学する方が精神的なハードルが下がるという考えのもと、基本的な考え方としたものです。別れた方がよい場合も個によってはあるかと思いますが、現状の学校配置の場合、かなりの偏りがあるということなのでご理解いただきたいと思います。
議長（委員長）	教育委員会としては、そういったアンバランスさや中1ギャップについて、改善する必要があると考えているということですね。
委員	本会の議論のベースとして、直近の統廃合等については児童生徒数の問題ではなく、学校施設の老朽化対策の方が市としては懸念していると捉えています。老朽化を軸としておいて規模と配置について考えていくのか、それとも規模と配置を軸として老朽化を紐付けていくのか、それによって今後の議論が変わってくると思いますが、いかがでしょうか。 直近で言えば、笠懸小学校と大間々中学校の目標使用年数まで残り10年を切っています。通常、学校施設は着手から開校までどれくらいの期間を要するものなのでしょうか。例えば、笠懸西小学校の場合は、何年くらいかかっているのですか。

教育総務課長	<p>笠懸西小はかなりタイトなスケジュールでした。用地交渉から開校まで実質的には4年くらいでした。（※用地選定や説明会等を含めると5年～6年）</p> <p>施設整備の面から考えると、目標使用年数が来たからすぐに学校施設が使えなくなり、すぐに学校を作らなくてはならないというものではありません。実際に学校の改修や建て替え等を行うときには、配置バランス等、本委員会で検討していただいた内容をもとに考えていく必要があります。</p> <p>施設整備と規模や配置は、並行して考えていかななくてはいけない部分があると思いますが、施設の方が優先ということではなく、委員会からの答申をいただき、教育委員会としての基本的な考え方が固まれば、それをもとに実際の施設整備をどのように行っていくかを考えていくこととなります。</p>
議長（委員長）	<p>【資料3】によると、笠懸町については緩やかな減少はあるが、今後も現在と同規模程度を維持できる見通しということですので、規模や配置を考える上においては、緩やかに考えていくことができるということ。しかし、大間々町については、児童生徒数の変動が大きく、学校施設の問題とリンクしやすい状況にあるという理解をしてよろしいでしょうか。</p>
教育長	<p>大間々地区の方が、児童生徒の減り方が激しいということはお承知のとおりのため、適正規模という点では大間々地区の方が検討の優先順位は高くなるを得ないところがあります。そうしたときには、いろいろな手法で対応していくということになります。前回の委員会においてお話したとおり、本委員会は具体的な手法について考える場ではありませんが、今後の方向性を出すためには具体的な手法についてもある程度考えざるを得ないということが事実であると思います。</p> <p>桐生市などでも同様ですが、手法についてはいろいろなことを検討材料にする必要があります。統合のしかたもいろいろあり、学区から考える方法もあれば、自由選択制などもあります。一般的に考えると、2つの学校を1つにまとめるというのは分かりやすい例ですが、今回例示した義務教育学校のように、小中が一緒になり、さらに小学校同士も一緒になる複合型のような統合の仕方もあるため、例示として挙げさせていただいたところです。</p> <p>基本的な考えの答申が出て（教育委員会の方針を決定後）、具体的な手法について検討する段階では、地域の方々と教育委員会で話し合っていくという次の段階に入ることになります。</p>
委員	<p>本日教育委員会から出された基本的な考え方について、適正規模では「1学年1学級」ということが示されましたが、個人的な考え方としては、この考え方は苦肉の策であり、また、最善の策なのではないかと感じました。</p> <p>大間々町の児童生徒数は、非常に少なくなってきており、令和4年度生まれの1歳児は62～63人、令和3年度生まれの2歳児が72人、令和2年度生まれの3歳児が66人しかいないのです。これは、幼稚園としては死活問題です。近くの8園（幼、保、こども園）でその60人程度を奪い合っている状況です。</p> <p>元教員としては、小学校は1学年2学級以上、中学校は1学年3学級以上が必要だと実感しています。なぜかと言うとそれくらいの規模の中で揉まれた方が学力は向上するからです。少人数の学校も経験していますが、子どもたちが高校進学や社会に出たときに、揉まれた経験が無いと弱くなってしまうことが考えられます。</p>

	<p>幼稚園では一人一人の活躍の場を意図的に設定したり、大人数の前で話すような経験をさせたりすることで小1ギャップを緩和できるようにしています。</p> <p>ただ、大間々町の状況を考えると小規模になるのは、仕方のない部分だと思います。小規模校を維持しながら、みどり市として移住定住のための施策を推進していただくことが必要です。市の施策についてここで話し合っても答えは出ないので、教育の中では適正な教員配置によって、学力向上などを目指して進めていくことが大切だと思います。</p>
議長（委員長）	<p>日本の教育は、転換期にあり、学力観も変化してきています。これまで大人数の中で鍛えられてきた部分があったと思いますが、少子化によって新しい学力観が必要になっており、教育に対する考え方も変化しなくてはならないのだと思います。</p>
委員	<p>人口動態を見ると、今後の人口が増加していくというのは難しいと思いますが、個人的には1学年2学級は欲しいと感じます。1学年1学級では、1年生から6年生まで、若しくは中学校3年生まで同じ学級で過ごすという可能性があり、人間関係等で問題があった場合は、それをずっと引きずっていかなくてはなりません。互いに切磋琢磨するという観点からも1学年1学級で本当に良いのか疑問が残ります。</p>
委員（学校長）	<p>現在、私が努めている小学校では、1学年1学級の小規模校です。各クラスの人数は20人前後です。</p> <p>1年生として入学してきた児童が6年生まで同じメンバーで過ごすため、やはり人間関係としては課題があります。複数のクラスがあれば、関係がこじれたときに別のクラスにしてリセットすることもできますが、1学級ではリセットできないため、課題を感じています。ただ、そこは法律の中でやっていくしかないため、教員の努力によりできるだけ解決できるようにしています。</p> <p>それから、子どものクラスの中での立ち位置が固定化してしまうということがあります。先ほどの意見の中にもありましたが、みんなの前で話す機会を設定するなど、意図的に行っていく必要性を感じます。2学級以上あれば、クラスのメンバーを変えていくことで、新しい自分を発見できるような機会もあるのではないかと思います。</p> <p>ただ、事務局からの説明にあったように、今、統合したとしても今後の児童生徒数の減少傾向を踏まえると、数年後にはまた1学級になってしまうということを知り、単純な話ではないと感じたところです。</p> <p>また、人口減を前提として議論するのか、人口増を視野に入れて議論するのかという話がありましたが、学校現場において人口や児童数が増えていくというのは実感として難しいと感じており、少人数の中で検討していくことが合理的なのではないかと思います。みどり市の地理的な状況や交通機関の状況などを踏まえて、現状をもとに議論していくのが、本委員会としてはよいのではないかと思います。</p>
議長（委員長）	<p>学校だけでなく、スーパーはどうなっているのか、医療機関・企業はどうなっているのか、学校を地域のコミュニティとして考えていく上では、先を見通した市としての取組について、市長を交えて議論する必要があると思います。しかし、本委員会としては、児童数が減少していくということは抑えざるを得ないと思います。</p>

(2) アンケート調査について【資料4】	
議長（委員長）	<p>アンケートは事前送付していただいておりますが、前回の委員会で委員の皆さんから出していただいた意見を基に、事務局にてアンケートを練り直していただいたというところです。</p> <p>実施期間は、令和5年10月23日（月）から11月17日（金）までを考えているということですが、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>不要と思われる設問についてですが、8-5の1学年の学級数などは学校名と学年が分かれば、わざわざ聞かなくてもよいのではないかと思います。</p> <p>また、教職員向けアンケートでは役職を聞いていますが、校長や教頭などは1人しかいないため、答えにくくなってしまっているのではないかと思います。ここは、年齢を聞くというのでもよいのではないのでしょうか。</p>
事務局	<p>1学年の学級数については、事務局としてすでに把握しているところですが、集計の都合で設問として入れていますので、回答に一手間かかってしまいますが、入れたままにさせていただきたいと思います。</p> <p>役職については確かに個人を特定できてしまうため、今いただいた年齢の設問への変更などについて、事務局内でもう一度検討し、実施したいと思います。</p>
委員	<p>小学校5年生用の設問について、例えば「学級」という表現は「クラス」にするなど、標記を易しくした方がよいのではないかとということと、設問14についても小学校5年生用に表現を分かりやすくするのはどうでしょうか。</p>
事務局	<p>もう一度、検討して修正していきたいと思います。</p>
委員	<p>学校の負担になってしまうかもしれませんが、アンケートを実施する前に授業の中で取扱い、授業の最後に一齐にアンケートへ回答するというのはできないのでしょうか。</p>
事務局	<p>非常に良いご意見だと思います。しかし、学校現場では授業時数等をやり繰りしながら、なんとか一年間の授業を行っているという状況があり、教育委員会から授業での取扱いをお願いするというのは難しいと考えています。</p> <p>本アンケートの目的は、現時点での児童生徒、保護者の意識調査という側面がありますので、学校に負担をかけずに行いたいと思います。</p>
議長（委員長）	<p>アンケートへの回答は、家庭にお願いした場合、対象者からすべて回答されるわけではないという想定でよろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>学校ごとの回答状況については、事務局である程度把握できるため、回答率の低い学校については、回答率が上がるように担任の先生から働きかけていただくことなどを考えていますが、100%の回答が得られるわけではありません。</p> <p>目標としては、80%以上の回答率を考えています。</p>
議長（委員長）	<p>アンケートは、再度修正等をしていただき、実施するというところでお願いします。以上で本日予定していた協議事項についてはすべて終了しました。ご協力ありがとうございました。</p>

5 諸連絡

第3回委員会 日時 令和6年1月17日（水）19:00～

会場 みどり市役所 教育庁舎 3階 第1会議室

6 閉会